

令和4年度第1回健康計画推進委員会会議録

日 時	令和4年8月25日（木）13時30分～15時
場 所	大栄農村環境改善センター 大会議室
出席者	<p>【委員】 宮川秀人委員、仲秀典委員、平賀瑞雄委員、荒川辰也委員、椿原香委員、小野塚奈津子委員、中本康則委員、田村禎之委員、奥田よしの子委員、河野寿一委員、楯身久美子委員、財賀真由美委員 12名（欠席4名）</p> <p>【事務局】 吉岡課長、木村室長、塚本</p>
	<p>1. 開会 2. あいさつ 吉岡健康推進課長 3. 自己紹介 4. 委員長、副委員長の選任 立候補はなく、事務局より推薦。 委員長：中本康則(自治会長会代表) 副委員長：財賀真由美(住民代表)</p> <p>5. 協議および報告 (1) 特定健診及び各種がん検診の受診率の推移、がん発見の推移(P3～4) ・コロナ対策で集団健診の1回あたりの受診数が制限されるため、開催回数を増加 ・胃がん・肺がん検診は、医療機関で受検する人が増加 ・特定健診を集団健診申込者で未受診者には(胃がんもあれば併せて)電話にて受診勧奨、子宮・乳がんは文書にて勧奨している。</p> <p>(2) 健康計画6つの項目に対する行政の取り組み(P5～8) ①運動習慣の定着 ・北栄スポーツクラブと連携し、運動教室を開催。 ・コロナ禍のためTCCを活用して、テレビ健康講座を放映。</p> <p>②健全な食生活の定着 ・食育とは全年代を対象とする必要あり。 ・食生活改善推進員連絡協議会では中2を対象とした料理教室を実施。 ・こども園との連携ではR3は由良こども園でこどもが主役のクッキングを実施。</p> <p>③心の健康づくり ・予防週間や強化月間に町報で「自死予防」を啓発や、予防週間に啓発グッズを配布。 ・今年度は食生活改善推進員養成講座で「ゲートキーパー研修」を開催予定。</p> <p>④歯と口の健康づくり ・こども園、小学校でのフッ化物洗口がコロナ予防のため実施できていない。 ・妊婦、ふしめ歯科検診を継続して実施。セット健診時には歯科衛生士の個別歯科相談を行い、関心を高める機会としている。</p> <p>⑤喫煙・飲酒対策 ・母子手帳交付時、乳幼児健診等、機会を捉えて禁煙、受動喫煙防止について啓発している。 ・飲酒については、小学校6年生を対象に生活習慣病予防講演会でアルコール依存症についても学習し、講演内容をYouTubeで限定公開することで保護者へも啓発。</p> <p>⑥生活習慣病の早期発見・早期治療 ・集団健診の健診回数を増やす、午後開催を設ける、人間ドックの対象年齢に70歳を追加す</p>

る等して、健診を受けやすい環境整備に引き続き努めた。

- ・特定健診は、過去3年間の受診や通院状況に応じて6種類の勧奨はがきを委託業者から年3回発送した。

#### 【意見等】

- 日本は添加物の基準が低いのではないかと？他の国に比べて添加物の摂取が多いように感じるので、がんの罹患率も多いのでは？
  - ⇒・日本にがんが多いのは高齢者人口が多いから
  - ・加工食品に添加物が多く含まれており、摂り過ぎないようにすることが必要
  - ・日本のがんの罹患率は減っている。一番のがんの要因は喫煙。日本は喫煙率が減ってきている。喫煙の影響は肺がんだけではない。他のがんでも影響はある。
- 小学校でのフッ化物洗口は、必要は感じるがコロナ対策を優先して休止している。
- 子どもの歯科健診をして思うのは、最近は歯肉炎の児が増えている。ブラッシングが出来ないと考えられる。給食後にブラッシング等が出来なくても、家庭でしっかりブラッシングをするようにすることが大事。
- 40歳代から口腔機能低下症が増えている。早期に対応すれば戻すことができる。オーラルフレイル予防、認知症にも関係する。
- 乳がん検診はマンモグラフィだが、エコーは取り入れてもらえないのか？自分自身、マンモグラフィではなく、エコーで初期のがんを発見し治療できた
  - ⇒町の健診としては、国が示しているとおりに実施している状況。

#### (3) 各組織、団体の今後の取り組み

##### ①北栄スポーツクラブ

- ・運動教室を開催
- ・施設の利用時間が9:00～22:00
- ・今年度から温水プールとなり、10月まで利用可能となっている。

##### ②北条小学校

- ・今は、感染症対策に重きを置いている。
- ・虫歯のない児童が増えず、全国レベルに達しない。虫歯を治療する児の割合が、中学校で5～6割、小学校で7割程度。治療費の問題ではないような感じがする。

##### ③北条こども園

- ・フッ化物洗口・ブラッシングを中止している。常にPCR検査を受けている状態で、クラスター対策班の専門家にも実際に園に来てもらった際に相談したが、現状では実施が難しいと判断した。
- ・虫歯がある児が多いのもあるが、多くの虫歯がある児もあり、また治療ができていない。
- ・大栄地区より給食の食べ具合が悪い傾向にあり、今年度は残食調査を実施している。
- ・コロナにより体験不足を感じる。体形保持、体幹を鍛える運動を中心とした取り組みを行っている。
- ・コロナにより外部の受け入れが出来ないが、菜園活動など体験活動等を通じて、食育を行っている。

##### ④老人クラブ連合会

- ・60歳以上が対象だが、加入者が少ない。「老人クラブ」の名称が悪いのかと考えてしまう。
- ・認知症予防の取り組みを行っている。
- ・自治会によっては、公民館の構造上、運動しづらい会場もある。

##### ⑤健康推進委員会

- ・大腸がん検診を各自治会で実施予定。意向調査等でなかなか書類が出てこない家庭に訪問に行くと、30歳代の子育て中の女性が「健診どころではない。日曜日も仕事に出ている」と話していた。

##### ⑥JA鳥取中央

- ・健診や個別指導の実施できている。人間ドックの受診率も高い。
- ・「うつ」の問題もあり、心の健康づくりの必要性を感じている。

⑦食生活改善推進員連絡協議会

- ・要請があればこども園、学校に出向くつもりはあるが、コロナで要望が少ない。今年度は大栄中学校のコミスクで、親子 20 組を対象に「じげの料理教室」を開催予定。
- ・地域で集合型の伝達講習は難しいが、資料を訪問して配布している。

(4)健康フェスタについて

10 月 15 日に社会福祉協議会と合同で「ほくえい健康フェスタ・福祉まつり」を開催する。  
感染対策として、整理券を配布して定員を 300 名としている。  
チラシを添付している

(5)その他

なし

※医師・歯科医師よりコメント

宮川医師

- ・歯科について、「歯周病は万病のもと」を実感した。

仲歯科医師

- ・歯周病は全身に影響を及ぼす。糖尿病も歯周病を治療すると数値下がる。歯周病からの合併症も多く、健康維持のために大切。
- ・ふしめ健診の受診率が低い。20 歳代から健診を受けることが大事。  
「口の健康なくして全身の健康はない」

平賀医師

- ・口の中はゆすげばウィルスは減る等、コロナ対応については専門家によっても意見が違う。
- ・色々な取り組みの話聞くことができたので、次回は達成した話を聞きたい。

6. その他

次回日程 11 月頃を予定